

資料2-5 弟子屈町

阿寒摩周国立公園 満喫プロジェクト2021

弟子屈町関係分Step Upの主な進捗状況
令和3年10月現在

【KA-1】川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化

①土地の権利関係

(廃ホテルの撤去、今後の活用促進に向けて)
川湯温泉にある廃ホテルの権利関係の整理を実施中



②遊歩道の延伸、温泉川の活用促進 (木チップ敷設、飲泉設備設置中)

昨年度整備を実施した川湯温泉街中心から、屈斜路湖まで続く川沿いの景観修景として、川湯地域運営協会(運協)を中心に倒木処理、岩盤を魅せる為の砂利やガラス破片の除去を実施。

町では、川湯温泉街内の遊歩道の延伸や、木チップの敷設等の工事を実施する。



【KA-5】 摩周・屈斜路トレイル(MKT)ルート拡充と利用促進

①MKTルートの整備

摩周・屈斜路トレイル上の道標（21箇所）を設置した。

ルート上の点検や草刈等の維持管理を引き続き定期的に行っている。



②仁伏半島散策路の再整備 等

2021年10月24日(日)に、仁伏半島での散策イベントを開催。

美幌峠旧道の新規ルートの検証も行っている。

仁伏半島 満員御礼

10/24 SUN 9:00-12:00

TOPICS

- ・森の樹木についてガイドが解説!
- ・プロトレナーによるストレッチレクチャーも!
- ・参加者全員にMKTステッカープレゼント!

ABOUT

場所 : 仁伏半島 (林業多目的センター駐車場集合)

参加費 : 500円/1名 (中学生以下無料)

定員 : 先着20名

申込 : 10/19 (火) までメールにて

mashu.kussharo.trail@gmail.com

※このイベントは、環境省の「自然体験型観光」の一環として実施されています。

お問い合わせ: 美幌峠旧道拡充について



【KA-6】 持続可能な観光の国際基準を活用した地域づくり

① 観光振興計画の策定中

弟子屈町の観光の指針となる観光振興計画の策定を進めている。

2018年に作成した、「てしかがスタイルのエコツーリズム全体構想」を基に、弟子屈町らしい観光と農業の両立を図り、持続可能な観光地域としての実践を踏まえた計画を予定している。

てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想



平成28年11月16日

てしかがえこまち推進協議会

② 日本「持続可能な観光」地域協議会へ参画

岩手県釜石市、北海道ニセコ町、長野県小布施町、京都府宮津市、徳島県三好市、熊本県小国町、鹿児島県与論町、一般社団法人地域観光研究所の以上9団体にて構成され、地方創生のモデル地域の形成に寄与することを目的とした協議会が本年7月に設立され、本町も参画した。

構成団体である、岩手県釜石市や北海道ニセコ町は、2021年のGreen Destination top100に選定されており、弟子屈町が目指す持続可能な観光地域づくりに向けても良きアドバイザーとなっている。



オンネトー野営場新休憩舎について

資料2-6
足寄町

●背景

- ・阿寒摩周国立公園全体入込**360万**(うち外国人約6万人)
- ・背景人口 **160万人**阿寒湖畔の入り込み(宿泊**57万人**)
- ・雌阿寒オンネトー 入り込み数 **27万人**(宿泊**5千人**)
登山 **12,000人**、野営場利用者 **1,700人**
- ・国立公園満喫プロジェクトによる外国人旅行者の増加
- ・アドベンチャートラベル(世界大会の北海道誘致2023)

●課題

- ・団体旅行から個人旅行への受け入れ態勢が遅れている。
- ・コロナ禍により個人(少人数)旅行が加速。
- ・利用者への安全と安心の提供、市街との経済的なつながり強化のため利用拠点を整備。
- ・コンテンツの作成、誘客、利用環境の整備保全等、事業者の育成

●新休憩舎概要

オンネトー国設野営場に当地区の活動拠点となる休憩舎を整備し、国内外からの利用者の利便性を高め、広域での観光利用や長期滞在を促進するため、トレイルやフィールド情報の発信、体験型ツアープログラムの受け入れやイベントの開催をNPOあしよろ観光協会及び民間事業者と連携し、適切な利用と保全を促進する。

【スケジュール】

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ・施設建設 令和2年7月～令和3年12月 | ・供用開始 プレオープン 令和4年5月(予定) |
| ・運営サウンディング 令和3年11月(募集中) | グランドオープン 令和4年6月(予定) |
| ・運営事業者公募 令和3年12月(予定) | |



新休憩舎外観



パブリックスペース



テラス



ワークショップ

内容	取組主体	連携先
施設整備	足寄町	十勝東部森林管理署
施設管理	足寄町 ↓委託	十勝東部森林管理署
観光案内	あしよろ観光協会 →・サウンディング(募集中) →・運営事業者募	足寄町
アメニティー提供		民間事業者
アクティビティー		民間事業者

内容
アクティビティー利用者をはじめ、地域のガイドなどの交流拠点となるような機能向上を図る。
オンネトー野営場をはじめ周辺施設について適切な管理を行う
雌阿寒岳やロングトレイルの西の発着点として、観光情報、トレイルや四季折々のフィールド情報について、利用者目線での提供を行い、足寄市街地地域との連携を強化。
軽食や活動に必要な道具の販売などを通して利用者がくつろげる環境を提供
ツアープログラムの誘致や、イベントやワークショップの開催を通じ、新たな利用者の誘致と適切な利用方法の提案を行う。

阿寒摩周国立公園管理計画（川湯地域）の一部改訂について

釧路自然環境事務所

1. 国立公園管理計画（※）について

※現在、全国的には「管理運営計画」とされているが、今回は早期に対応が必要な一部分のみを改訂する方針であるため、現行の「管理計画」の表現を用いる。

(1) 作成目的

地域の実情に即した国立公園管理業務の一層の徹底を図り、国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ること。

(2) 作成主体

地方環境事務所長又は自然環境事務所長

（阿寒摩周国立公園管理計画は、釧路自然環境事務所長が作成）

(3) 作成手続

地元自治体をはじめ地域関係者からの意見聴取、環境省自然環境局長との協議、パブリックコメント等を経て作成・変更する。

(4) 管理計画の内容

主に以下の事項を定める。

- ①国立公園又は管理計画区の概況
- ②管理の基本方針
- ③風致景観及び自然環境の保全に関する事項
- ④適正な公園利用の推進に関する事項
- ⑤公園事業及び行為許可等の取扱いに関する事項

2. 阿寒摩周国立公園管理計画（川湯地域）の一部改訂

(1) 改訂の背景と作業方針

- ・阿寒摩周国立公園の管理計画（川湯地域）は、平成3年3月に作成、平成18年7月に改訂。前回改訂から15年が経過し、様々な社会状況の変化が生じている。
- ・特に近年の満喫プロジェクトの展開、本年10月からの屈斜路湖の動力船規制等を踏まえ、自然公園法に基づく従来の規制の運用等について、できるだけ早期に一定の整理が必要。
- ・よって、自然公園法に基づく許認可事務の取扱方針である1（4）⑤の事項の一部を中心に、今年度内を目途に改訂を完了させる。残りの事項及び阿寒地域の管理計画は、次年度以降に改訂作業に着手する。

(2) 改訂案の概要

管理計画（川湯地域）のうち、「公園事業及び行為許可等の取扱いに関する事項」について、適正利用の促進等の観点から、主として以下のような改訂を行う。

①許可、届出等取扱方針

（特別地域及び特別保護地区における許可を要する行為）

- ・ 棧橋の設置基準を明確化する。
- ・ 車道法面緑化の取扱い及び通景伐採の取扱いについて明確化する。
- ・ 地熱開発を目的としたボーリング調査を許容する。
- ・ 幟等の野だて看板が例外的に許容されうる考え方を新たに示すなど、広告物の取扱いについて一定の整理を行う。

（普通地域における届出を要する行為）

- ・ 太陽光発電施設の新改増築、特別地域内の河川・湖沼の水位水量を増減させる行為、公告物の掲出等について、その取扱いを新たに示す。

②公園事業取扱方針

- ・ 舟遊場事業施設として認める動力船及び棧橋の数を、事業地区ごとに明確化する。また、動力船規制の形骸化防止のため、他の公園事業施設に附帯する形での舟遊場は認めないこととする。
- ・ 最新の公園計画に位置づけられている道路（車道・歩道）事業の取扱いを追加。

(3) 想定スケジュール

- R3.11.4 満喫プロジェクト地域協議会合同部会にて本件の意見交換（本日）
- R3.11 関係行政機関等の地域関係者と事前調整（平行して環境本省担当課とも調整）
- R3.12 パブリックコメント開始（～R4.1）
- R4.1～2 パブコメ後の最終案について関係行政機関等の地域関係者に公文照会
- R4.3 環境本省との協議を経て改訂を完了、満喫プロジェクト地域協議会にて報告

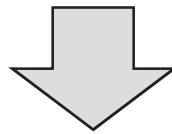
阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
令和3年度開催状況および今後の予定

令和3（2021）年11月4日

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
阿寒地域・摩周地域部会合同

- ・ 国立公園に関する施策について
- ・ 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2025 の進捗状況について（2021年度の取り組み）
- ・ 阿寒摩周国立公園管理計画（川湯地域）の一部改定について

開催地 …弟子屈町（会場：川湯観光ホテル ラピュタ）



令和4（2022）年2月

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

- ・ 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2025 の進捗状況について（2021年度の取り組み成果） 等

開催地 …釧路市阿寒町（会場：阿寒湖温泉（未定））

令和2年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
議事概要

1. 日時：令和3年2月8日（月）14:00～16:00
2. 場所：弟子屈町川湯温泉 川湯観光ホテル コンベンションホール ラピエタ
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議事

■開会

- 北海道環境生活部環境局 小林自然環境担当局長より挨拶
- 事務局からWEB参加者の紹介と大空町が急遽欠席となったことを報告
WEB参加：北海道開発局、北海道経済産業局、足寄町、中標津町、北海道経済部観光局
欠席：大空町

■議題

(1) 報告事項

1. 国立公園満喫プロジェクトに関する令和3（2021）年度予算について（環境省）
 - 事務局（環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長）より資料1-1に基づき説明
 - ・令和3年度予算案：約190億
（令和3年度予算160億＋令和2年度3次補正予算約30億）
 - 国立公園・温泉地等での滞在型ワーケーション推進事業 30億
 - 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（拡充）
 - 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（核心地の利用施設）（継続）
 - 国立公園等多言語解説等整備事業（継続）
 - 国立公園等の自然を活用した滞在型観光コンテンツ創出事業（新規）
2. 観光庁の令和3（2021）年度予算について（北海道運輸局）
 - 北海道運輸局観光部 水口次長より資料1-2に基づき説明
 - ・訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業の【拡充】部分（感染症対策）は指定市区町村も対象となる。
 - ・補助メニュー（7）観光案内所における非常用電源装置及び情報端末への電源供給機器の整備、（8）観光施設等における感染症対策機器の整備は指定市区町村も対象。
3. ATWS（アドベンチャートラベル・ワールドサミット）北海道開催について（北海道）
 - 北海道経済部観光局 石塚主任より資料1-3に基づき説明

- ・アドベンチャー・トラベル（AT）とは、「自然」「アクティビティ」「異文化」の三つのうち2つ以上を含む旅行形態であり、主要顧客は欧米豪の富裕層
- ・アドベンチャー・トラベル・ワールドサミット（ATWS）はアドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーション（ATTA）が主催する世界最大の AT イベント
 - 商談会とエクスカージョンで構成
 - 2021 年に北海道で開催されることが決定している
- ・ATWS2021 北海道について
 - 日程は9月20日～23日まで。商談会会場は札幌コンベンションセンターを予定し、エクスカージョンは全道各地に加え道外でも実施予定。
 - 北海道、北海道観光振興機構、運輸局、経産局、釧路市、札幌市を中心に実行委員会として準備を進めている。
 - エクスカージョンコースのモデルコース候補について、プレサミットアドベンチャー＝PSA の15コース及びデイオブアドベンチャー＝DOA の32コースの候補が決定し、昨年11月に実行委員会のホームページに公表。（ATTAの承認後、正式決定となる。）
 - 昨年12月にATWS2021の開催地が北海道である旨、ATTA主催のウェビナーにおいて正式に世界に向けて発信された。ATWSのホームページでも公表されている。
 - 本年9月の実施に向けて、引き続き準備を進めていく。

○報告事項1～3について出席者からの質問等はなし

4. 地域経済活性化支援機構（REVIC）との連携について

- 環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長より、地域経済活性化支援機構（REVIC）と説明者の佐藤シニアディレクターの紹介。
 - ・環境省とREVICで包括連携協定を締結している。
 - ・阿寒摩周国立公園においても地域経済活性化に向け連携して取り組んでいる。
- 佐藤シニアディレクターより資料1-4に基づき説明
 - ・2013年設立。観光、地域の活性化をテーマに活動している。
 - ・阿寒摩周国立公園は観光遺産産業化ファンドの対象地域の一つ。
 - ・観光遺産産業課ファンド → 観光地の「再生」のフェーズではなく「活性化」のフェーズととらえている。官民公金が連携して観光コンテンツの磨き上げをしながら一体となって、会社設立や投資等を通じて地域経済の活性化支援を行う。
 - ・事例紹介
 - 長野県／上信越国立公園（志賀高原）エリア
 - 長野県／白馬村（岩岳）エリア
 - ・阿寒摩周国立公園活性化に向けての取組

- 北洋銀行、釧路信金と、どのような支援ができるか議論してきている。
- 国立公園の磨き上げをし、観光を使って活性化させたい。
- 摩周地域で先行して、様々な関係者と連携して取組進めたい。

○出席者からの質問等はなし

(2) 協議事項

1. 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱の改正について

○事務局から資料 2-1 に基づき説明

- ・「ステップアッププログラム 2020」→「ステップアッププログラム 2025」に改正
- ・構成員の職名変更（資料 2-1 下線部）

○出席者からの質問等はなし

2. 「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム 2025」および具体的な取組について

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長より資料 2-2-1 に基づき説明

- ・阿寒摩周国立公園では、満喫プロジェクトの先行公園としてステップアッププログラムを作成し 2020 年までを当面の目標に取組を続けてきた。2021 年以降も満喫プロジェクトが継続されることが本省でも決まっている。各公園でも継続して取組場合は 2025 年までの計画を作成し、それに基づいて取組を進めていくように指示がでているので、この協議会の場で 2025 年までにに向けた計画について承認いただきたい。

・資料の訂正について（2 点）

- 「はじめに」の後半で G o T o トラベルキャンペーンにより一時的に国内旅行者は持ち直していると記述しているが、資料調整時（年末）と現時点（2 月）で状況が変わってきていると指摘があったので、事務局で訂正して再度共有する。

➤P. 34 （1）進捗状況の確認 3 行目

誤）阿寒摩周国立公園満喫地域協議会（仮）

正）阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

○出席者からの意見、質問等

【弟子屈町 徳永町長】

- ・ステップアッププログラムが 5 年間延長されることについて、大変ありがたく思っている。川湯温泉地区では、自分達・町ができなかったこと（廃屋の撤去）ができ、ありがたい。
- ・地域住民、町自体の意識も変わってきている。この 5 年間で抱えている廃屋等の問題、11 館もの撤去ができる。
- ・町全体で弟子屈にくる方々、阿寒摩周国立公園に来る方々をどうおもてなしをする

か。地域全体として廃屋はじめ、自分達でやれることをまずやる、ということはこの事業のおかげで認識させられた。心から感謝したい。

- ・自分達のやりたいことをこの機会にできた。阿寒の皆様はじめ、多くの皆様に感謝したい。これからも、やれることはたくさんあるので、よろしくお願い申し上げます。

3. 「阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想」および「阿寒摩周トレイル標識整備及び維持管理に関するガイドライン」について

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長より資料 2-3-1、2-3-2 に基づき説明

- ・阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想は、ステップアッププログラム 2025 で掲げている。また、2020 までの満喫プロジェクトでも力を入れて取り組んできたことの一つである。今後の方針について、この場で議論いただき承認いただきたい。(資料 2-3-1)
- ・阿寒摩周国立公園トレイル標識整備及び維持管理に関するガイドラインは、既存のトレイルを含めて、トレイル整備の情報発信についてまとめたもの。(資料 2-3-2)
- ・参考資料として阿寒摩周国立公園トレイルガイド冊子を配布。

○出席者からの意見、質問等はなし。

○協議事項 1～3 について出席者より承認。

(3) その他

○弟子屈町観光商工課 秋山課長より当日配布資料(神秘の湖【摩周湖】を守り、水質調査を続けたい!～摩周湖から地球環境の保全へ～)について紹介。

○出席者よりこれまでの振り返りや今後に向けて

【国土交通省北海道開発局 釧路開発建設部 石川部長】

- ・北海道総合開発計画をもとにして、道路、港湾、農業整備などのインフラ整備を行っている。10 年の計画の中で今年は中間点検の年にあたり、過去 5 年間の取組の状況を踏まえて、今後 5 年間どのようなことに重点を置いて進めていくか議論しているところ。
- ・計画のキャッチフレーズは「北海道の強みは食と観光」であり、それを戦略的産業として食と観光の生産空間を支えて、世界の北海道を目指すとしている。
- ・観光についての内容も多く盛り込まれており、今回の協議会の話に方向性が合致している。昨今のコロナ感染症の影響を受けても、北海道の強みである食と観光の価値は、魅力として変化はないと思っている。
- ・向こう 5 年間の方針として、世界水準の観光地形成という章立てをしており、この中にはアドベンチャートラベルや、観光資源のさらなる磨き上げ、個々の地域を結

ぶ広域ネットワークの整備等がうたわれている。

- ・道路等のインフラは阿寒摩周地域の今後の観光の発展に役立つものと思っている。これからも、満喫プロジェクトと方向をひとつにしてインフラ整備を行っていききたい。今後ともよろしくお願ひしたい。

【国土交通省北海道運輸局 観光部 水口次長】

- ・アドベンチャートラベルをグラフ化しようとは何年も取り組んできたが、取り組みれば取り組みほど、色々な方々と手を結ばなければいけないと実感する。
- ・満喫プロジェクトをスタートし、色々な方々と一緒に活動する機会が増え、これが2025年まで延長ということであれしく思う。
- ・ATWS が今年開催されるが、スタート地点に過ぎないのでこれからどうやっていくのか問われている。コロナ時代なので地域とか環境とか国立公園とか、北海道にチャンスが回ってきていると考えるので、より一層皆さんと連携を深めて一緒にいききたいと思うのでよろしくお願ひします。

【林野庁北海道森林管理局 根釧西部森林管理署 相澤署長】

- ・ステップアップしていくにあたって国立公園と国有林における連携が必要になる。この地域の国有林を管理する者としては、取り込めるものについては、積極的に協力をしたい。
- ・利用や保護の点でいろいろあるが、我々ができることとしてこの地域を活性化することが一つの目的となるので引き続きよろしくお願ひします。

【釧路市 蝦名市長】

- ・釧路市の観光立国ショーケースということで、全国3カ所の中に選定されており、その選定の中でも東北北海道を大きく発信していきたい。
- ・その中で、地域からモデルを作り進めていく形の中でさらに相乗効果を高めていただいて、コロナ禍ではあったが成果はあったと思っている。
- ・環境省直轄の様々な事業もお力をいただいた。大変ありがたい。
- ・佐藤さん (REVIC) の話にもあったが、投資という言葉はまさに予算をどう使うか、国立公園満喫プロジェクトや観光政策について重要だと考える。今後、5年間のステップアッププログラム2025の取り組みなどと連携して進めたい。
- ・ATWS といった形もさらに活用したい。
- ・ワーケーションの関係で、民間の方 (株式会社エステー) が日本全国66カ所の空気を調べた結果、阿寒湖畔周辺の空気が一番きれい。
- ・保護と利用で日本一の環境を作り上げ、どんどん発信していきたい。

【弟子屈町 徳永町長】

- ・色々な面で町民全体で力を合わせることができ、また人材的にも国が応援してくれるため、町としていろんな面をやっていききたい。
- ・官房長官時代に菅総理や小泉大臣、赤羽大臣に来ていただき、各方面阿寒・摩周湖周辺を含め見ていただいた。町としてもしっかりとバックアップしていききたい。皆さんに感謝している。

【清里町 櫛引町長】

- ・阿寒・摩周国立公園と知床国立公園に地理的に挟まれており、農地が広がっている町である。
- ・今年の阿寒・摩周国立公園に名称が変更になるにあたり、区域が一部変更になった時に摩周湖の中腹、神の子池が含まれたため、清里町に観光客が増えた。今回のプロジェクトの力を借り環境施設などを整えることができた。
- ・裏摩周の施設についても老朽化が進んできていたが、プロジェクトの中で見直ししていただいた。感謝したい。
- ・清里町の、2つの国立公園の中間点にあるという立地条件、斜里岳という資源を活用しながらアドベンチャー・トラベルの体験・滞在型観光を目指していききたいと考えているので、ご指導ご支援を賜りたい。

【標茶町 牛崎副町長】

- ・標茶町は西別岳周辺が阿寒摩周国立公園内に含まれている。西別岳は主に登山やトレイルで利用されているが、地元としてこれまで清掃作業や休憩施設である山小屋の維持管理に加え、登山客にセイウタンポポの駆除協力呼びかけ、高山植物の保護にも努めてきたところ。
- ・しかし、それらの主な担い手が高齢化しており、この満喫プロジェクトの中で新たな5年に向け、どうしていくか、どういう取組みをしながら機能を発揮し、貢献できるのか、そういったことを考える5年間であると、トレイル構想等しながら考えると。その際は是非、プロジェクトに参画している皆様の力をお借りしながら進めていきたいと考えている。
- ・ATWS においては、釧路川下流域の自治体としてお手伝いできることがあるのではないかと考えている。そちらもぜひよろしくお願ひしたい。

【小清水町 産業課 畔木課長】

- ・本町は、阿寒摩周国立公園の中では屈斜路湖外輪山の部分に接しているということで、今回協議会に参加させていただいた。

- ・ 瀧沸湖ラムサール登録湿地において、インバウンドを対象としたバードウォッチングで、4年ほど前から町おこしに取り組んできたところだが、今般の新型コロナの影響で観光業が冷え切ってしまっている状況である。本町は知床国立公園の入口、阿寒摩周国立公園のオホーツク側の出入口ということで、元々通過型観光の地域であり、観光で生計を立てている者は少なかったが、(コロナで)地域は大きな影響を受けている。
- ・ 本日は、これからの満喫プロジェクトの新たな5年間ということでご提案をいただき、また、本年 ATWS が開催されるということで本町の観光業の皆さんも非常に期待しているところ。
- ・ これからも観光事業について積極的に参加させていただきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【自然公園財団阿寒湖支部 野竿主任】

- ・ 自然公園財団阿寒湖支部は、国立公園の施設の管理や清掃を行っている。
- ・ ステップアッププログラム 2020 では、阿寒湖温泉の顔でもある阿寒湖畔駐車場の料金所及び柵の老朽化対策を予定していたが、実施途中ということもあり、ステップアッププログラム 2025 ではそれを継続して実施していく。また、温泉街の清掃を繁忙期に積極的に実施し、阿寒摩周国立公園を美しく維持していければと思っている。

【自然公園財団川湯支部 大坂所長】

- ・ これまでの成果として、
 1. 老朽化した施設の簡易修繕・補修、美化清掃及び管理の実施。
 2. 摩周湖第一展望台及び硫黄山駐車場のチケットハウスへのポケットークの配備及び屋根と壁の塗装による景観改善。
 3. 自然観察会用の雨具レンタル事業の実施。
 4. 駐車料金の用途を明確にするための料金表示の看板設置を実施。
 5. 地域住民による魅力再発見を促すため、弟子屈町民向けに駐車場の無料開放を2018年から2020年に実施。
- ・ 今後も継続して地域住民に摩周湖硫黄山の魅力を再発見していただけるよう、町民限定の駐車場の無料開放を引き続き実施したい。2020年はコロナ禍ということもあり3日間という短い期間の実施となったが、有料台数の13%という結果になっている。

【北海道観光振興機構 地域支援本部地域観光部 嵯峨山担当部長】

- ・ 北海道観光振興機構の大きな事業の一つとして地域の魅力を生かした観光推進事

業があり、国立公園エリアでサポートしており、美幌地区のトレイルルートの整備を3ヶ年事業の3年目として支援させていただいている。

- ・今年から摩周湖観光協会の川湯温泉ブランド化事業やその他近隣エリアの事業についてもサポートさせていただいている。
- ・北海道観光振興機構としては、マーケティングの観点からマネジメントをし、皆様と手を取ってサポートさせていただきたいと思っている。

【前田一步園財団 新井田理事長】

- ・蝦名市長から、一番空気がきれいなのは阿寒湖だというお話があったが、大変励みになるものであった。
- ・満喫プロジェクトの進め方について、問題点や課題の整理をし、計画期間内にどのように事業を進めるのか、チェックを入れながら進められていたということは、本当に重要な事だと思っている。
- ・本プロジェクトの前半5年間については、訪日外国人や外国の富裕層を対象にした事業が中心であったが、新しいステップアッププログラムは、国内の利用者にも焦点を当てたものになっており、非常に大事な事だと思っている。
- ・訪日外国人であろうと富裕層であろうと、我々、日本人であろうとも本当に感動するような公園に変わりはなく、自然に配慮した整備が必要だと思っている。
- ・園地整備や遊歩道整備といった基盤となる整備を進めることは非常に大事なことだと思うので、しっかりと進めていただきたい。
- ・自然と活用を共生させながら進めるという内容が計画の中に出てきているが、阿寒摩周国立公園は自然を大事にしているということが最大のセールスポイントになると思う。
- ・核となるような自然は徹底的に「守る」という姿勢も持つべきだと考えている。

【摩周湖観光協会 渡辺会長】

- ・昨年9月末に満喫プロジェクトで廃屋を撤去させていただき、その跡地を利用して「KAWaaaaRu (かわーる) 川湯」というイベントを実施した。その名のとおり景観とともに町民の意識が変わったということで、それを機に温泉川の掃除や景観の改善など色々な取組みが行われた。
- ・10月11日から25日の間に硫黄山のナイトミュージアムを実施。自然の光を当てて、硫黄山の歴史、景観、星の説明を行い、多くのお客さんに来ていただいた。
- ・川湯の林の中で「森の図鑑」という、QRコードを利用し、携帯で動植物の説明をすることで森の価値を高める取組みを行った。
- ・観光協会では、ブランド化推進として、硫黄泉の殺菌力、原生林の森林浴、蒸気浴、飲泉など、川湯温泉の特徴を生かした健康増進を図り、地元の地域の特色を活かし

た取組みを行っていききたい。満喫プロジェクトには本当に感謝している。

- ・今後は電気自動車の普及やプラスチックゴミなどの減量、どこでも観光地化を目指して色々な場所を見ていただきたい。地元の食を活かしたこだわりのおもてなしをしていければと思っている。

【阿寒観光協会まちづくり推進機構 大西理事長】

- ・国立公園満喫プロジェクト第1期、これで終わりかと思っていたところだが、ステップアッププログラム2025の提案があり、本当に感謝申し上げます。
- ・国立公園満喫プロジェクトと観光立国ショーケースという国の二つの大きな施策にしっかりと付いていこうということで、カムイルミナ、阿寒の街全体をアイヌ文化の発信地にするハロプロジェクト、ATWSに象徴される阿寒の自然を活用したコンテンツの充実、アイヌ文化の発信と、4つの重点プロジェクトについて推進し、ほとんど実現できたと思っている。
- ・マリモのプレミアムツアーは課題として残っている。マリモの素晴らしい魅力を世界のアドベンチャーツーリストにどう知っていただくか、という試みも進めていきたい。
- ・なにより感謝申し上げたいのは、ボッケの栈橋の復元や、景勝地の滝口までの遊歩道の検討について、約束したことをしっかりと遂行していただいたこと。
- ・満喫プロジェクト第1期の課題であった地元の充実については達成できたと思っている。次のステップにおいては、パートナーである弟子屈町との強い連携はもちろんのこと、津別町や足寄町、近隣の町村様との連携に力を注いでいきたいと思っている。

【美幌町 多田商工観光主幹】

- ・本町は津別町と大空町と広域で三町統一観光協議会という団体を設置している。美幌峠を真ん中に、藻琴山、津別峠を結ぶトレイルを作っているところ。今年度、環境省の補助を受け、3地点を結び、全線開通となった。
- ・まだ調査道であるため、今後においては、3町での広域連携をさせていただき、関係機関の協力を受けて検討して参りたい。

【津別町 産業振興課 小泉課長】

- ・2019年に阿寒摩周国立公園に隣接する上里地区（町民の森自然公園）にネイチャーセンターを設立し、アクティビティの拠点施設・国立公園へ誘客するエントランスとして確保している。
- ・町民の森自然公園と津別峠においては、2019年に案内文章の多言語化、2020年に看板整備の媒体化を実施してきた。

- ・3町の広域観光協議会（美幌町・津別町・大空町）が「屈斜路カルデラ・外輪山ロングトレイルルート」の整備を目指して現在取り組んできているところ。
- ・今後の取り組みとして、弟子屈町と連携して津別峠展望施設の展望スペース拡張の可能性を探りたいと考えている。満喫プロジェクトステップアッププログラムの取り組み個票として新規に提出させていただいたところ。
- ・ウィズコロナ対応とアフターコロナを見据えた目玉のひとつとして、この地域のさらなる魅力アップと誘客に向けて取り組んでいきたいと思う。

【経済産業省北海道経済産業局地域経済部食・観光産業課 高橋参事官（WEB）】

- ・直轄の事業はなかなかないが、事業再構築補助金での支援、小規模の事業者には活用いただける小規模事業者持続化補助金等を引き続き用意させていただいており、事業者への支援という形でステップアッププログラムに関わっていければと思っている。
- ・ATWS 開催に向け、関係の皆様と一緒に頑張っていききたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【北海道経済部観光局 石塚主任（WEB）】

- ・アドベンチャートラベル・ワールドサミットに関する報告をさせていただいた。
- ・ATWS を契機として、本道における AT の振興を進めていかなければならないと考えている。
- ・阿寒摩周国立公園エリアは、北海道を代表する AT の適地の1つである。ガイドの育成、各種プロモーション等の様々な取り組みを通じて、環境整備・情報発信等を行っていききたい。今後ともよろしくお願ひしたい。

【足寄町 渡辺町長（WEB）】

- ・足寄町のオンネトー地区の事業については、環境省、北海道、関係者の皆さんにご尽力いただいたことに心から感謝申し上げたい。
- ・オンネトー地区については、もともとオンネトー茶屋という休憩施設であり、新しい休憩舎が必要だということが課題になっていた。
- ・今回の満喫プロジェクトの事業で令和2年に事業着手した。令和2年度には下部の基礎工事を実施し、令和3年度には上部の建物部分が完成する予定。
- ・運営の中身についても今後検討を進めて行く予定。今後も協力をよろしくお願ひしたい。

【中標津町 経済振興課 太田課長（WEB）】

- ・満喫プロジェクトが継続して実施されるということで、本町としても空港を持つ町

として、連携協力させていただきたい。

【北海道釧路総合振興局保健環境部 井戸井くらし・子育て担当部長】

- ・今後、この新たなプロジェクトを続けられることを本当にうれしく思う。
- ・自然公園はコロナ禍においても様々な場面で強みがあり、こういった取り組みを続けていることは地域の飛躍に繋がっていくものだと思っている。
- ・東北海道地区の真ん中にこのような素晴らしい国立公園があり、そこで先進的な取り組みをやっている、それが続いてきたことで、我々としても少しでも役に立てるよう、できることをしっかり取り組んでいきたいと思っている。

【北海道環境生活部環境局 小林自然環境担当局長】

- ・最初に事務局として挨拶をさせていただいたので個人的な感想も含めてお話させていただく。
- ・国立公園満喫プロジェクトに私自身が立ち上げ時から色々なかたちで関わらせていただいている。これまで常識だと思っていたことが、発想の転換で大変大きく変わっていることを私自身学ばせていただいた。特に国立公園の保全と利用、これはどちらかというかと相反する物という風に考えていたが、保全することで利用が促進する、逆に利用することで保全をはかる、両輪とした取り組みが色々難しい課題だと思っていたが、実は様々な場面で可能だということがよくわかった。
- ・未利用資源が想像以上に多くの視点を変えることによって優れた価値を持つということなどもよくわかった。このような成果については国立公園のみならず自然公園の保全や利用のあり方にも非常に大きく影響するものだと考えている。
- ・私の個人的な考えだが、私自身や今日お集まりの皆さんも、自分がやりたいこと、自分が満喫することを考え実践するということで他の利用者の方も引きつけられると思っている。コロナも含め様々な課題があるが、これからも固定観念にとらわれず、今後も地域が一体となって弾力的な発想によってプロジェクトが推進していくことを大いに期待しているところ。

○笹渕所長より来年度の予定等について

- ・地域協議会を国立公園の総合型協議会に発展移行していきたいと考えている。
- ・観光の利用だけでなく、保護の観点も含めて国立公園の課題を議論する場として協議会を発展させたい。
- ・今後の自然公園法改正の流れも見ながら、体制について皆様と考えていきたい。

○全体を通じて出席者からの質問等はなし。

【事務局から連絡事項】

- ・この後、17:00から川湯ふるさと館において、満喫プロジェクト特別対談を予定しているため、来場願いたい。

■閉会

- 環境省釧路自然環境事務所 田邊所長より挨拶